

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年8月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4073500284		
法人名	医療法人 恵真会		
事業所名	グループホーム めぐみ		
所在地 (電話番号)	福岡県前原市大字志登 567番地1 (電話) 092-330-6111		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成19年8月21日	評価確定日	平成19年9月20日

【情報提供票より】(19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年3月4日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	11 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 11

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)	(新築) / 改築
建物構造	鉄骨	造り
	1階建て	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1300 円	

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	0 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	69 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	渡辺整形外科病院・糸島医師会病院・小島歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地より少し離れた田園地帯に母体の老健施設と隣接して建ており、正面玄関からは田園風景が広がり、遠くには山を望むことができ、自然環境に恵まれたホームである。利用者が快適に安心して暮らせることを配慮した設計がなされており、居間・食堂を中心に居室が配置されているため、居間、食堂、に自然と利用者が集まる環境となっている。風呂・トイレの場所には大きく布切り文字で手作り暖簾が掛けてあり、利用者に分かりやすいように配慮されている。居室入口には一般住宅で使う表札に利用者名が書かれ、あたたかも自宅で暮らしているかのような細かい配慮がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域とのかかわりが改善課題であったので、それに対して職員全員が介護会議の場で今後の地域交流方法を話し合い、地域に開かれたホームを目指す事を、取り組み課題に決定した。めぐみ便りを定期的に地域にポスティングで配ったり、ギャラリーで利用者の書道、写真等の作品展の開催、バザーの参加等、地域とのかかわりに積極的に改善に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については全職員で取り組み、評価意義も十分理解し、評価を改善課題の指針として自己評価に主体的に取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>構成メンバーは家族会代表、地域包括支援センター代表、ボランティア代表、民生員等、ホームよりホーム長、管理者、職員により会議が開催され、主に行事関係、利用者の状況報告が行われている。討議内容の充実とそれを活かした取り組みが行われている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>来訪時に声かけ、それとない質問などからご意向を聞きだすようにしている。訪問頻度が少ない家族には毎月手紙、電話等によりご本人の状況を報告している。家族は、なかなか意見、苦情、不安を言われない方が多いので、家族アンケート、意見箱の設置がされている。それらを介護会議にて検討し運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域に開かれたホームを目指し、ホーム便りを配布したり、今年になって地区の民生員さんが頻りに訪問され、ボランティアの方が気軽に立ち寄り利用者との話し相手になったり、また商工会のお祭りや地域の小学校の文化祭の見学、ギャラリーで作品展の開催、バザーの参加等地域交流が図られている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりの命の輝きを大切にしたいやりのある心豊かな暮らしを目指します。」を理念につくりあげている。玄関、事務所内にも掲示されているが開設時からの理念がそのままである。		平成18年の改正により、地域との関係性が重視されるようになりました。地域密着型サービスの役割を理解し、地域のなかで暮らすことを意識し、果たすべき役割を反映した具体的理念を加えることが望まれる。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はホーム理念を共有し、日常業務を行っている。理念を仕事に表現することはなかなか難しいと感じているが、毎朝申し送りの際に理念の読みあげを行い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の文化祭、商工会のお祭り等地域行事に積極的に参加している。また隣接の老健施設との合同であり、さい祭り、独自で地域のギャラリーでほのぼの作品展を主催し、地域、小学校、幼稚園などにパンフレットを配り積極的に参加を呼びかけ交流に努めている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者や職員がともに話し合っ取り組んでおり、評価の意義を理解し、迅速な改善に取り組む質の向上に努めている。		外部評価の結果を踏まえ、管理者や職員で話し合い改善に向けて検討されているが、内容を周知徹底の為に改善計画シートの作成を期待したい。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成メンバーは家族会代表、地域包括支援センター代表、ボランティア代表、民生員等、ホームよりホーム長、管理者、職員により会議が行われサービス向上に活かしている。議題は主に行事関係、利用者の状況報告がなされている。		

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは連携が取れていない。交流や相談もしていない。		市町村担当者とともに課題解決を図っていく取り組みが大切となり「ホーム便りめぐみ」を月1回市担当者へ持参し、ホーム状況を話すことなど日常的な関係づくりが望まれる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員ともに学ぶ機会を持ち、管理者は地域権利擁護事業や成年後見制度をパンフレットをもとに活用しているが、職員までは活用にはいたっていない。		勉強会を開き職員の理解を深め、地域権利擁護事業や成年後見制度のパンフレット等を活用し、必要な時に支援出来る体制づくりが望まれる。
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の近況報告については、家族との面会時やケアプラン作成時に行っており、他に担当者がめぐみ便りと共に手紙で報告している。必要なときには随時電話で連絡を取っている。金銭管理については毎月末時、レシートを家族の方に見せて報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケート、意見箱の設置。来訪時に声かけ、それとない質問などから意向を聞きだすようしている。それらを介護会議にて検討し運営に反映させている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動は基本的に行っていない。離職を最小限にするために、運営者は職員との意思の疎通を図り職場環境を整える努力をしている。職員の引継ぎ期間は1ヶ月間設けており、利用者には十分馴染む配慮がなされている。		

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	採用にあたっては特に性別、年齢などで断るようなことはしていない。職員15名中、男性3名とバランスの取れた職員体制となっている。また各職員が得意分野を担当することにより、個々の能力を発揮できるように配慮されている。休憩時間も保障されており、定時になればスムーズな退社がなされている。		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	ホーム長自ら利用者と同日線で対話がなされており、全職員、居室に入る際にも必ずノック、声かけを行い許しを得て入室している。人権学習については、隣接する老健センターとの勉強会で3回に1回は学習がなされている。		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	運営者の職員育成には意識が高く、老健施設との全員参加の合同勉強会や外部研修会には各職員交代で参加している。全職員が共有できるように研修内容は月1回のユニット会議、介護会議の場で口頭、文書により報告する機会を設けている。		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会に登録しており、地区ごとの研修、勉強会に参加し積極的な交流を行っている。また他事業所との職員間の交流を通してサービスの質の向上を図っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入居前には利用者と家族に来ていただきホームの雰囲気になれる工夫をしている。入居後も本人が落ち着くまで家族と一緒に泊まっていたり、入居者に十分な配慮をしている。		

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	季節の花植え、漬物つけ、料理の味付け等、それぞれのやり方を学びながら暮らしている。戦争体験、若い頃の話等を聞きながら共感し、職員は入居者とともに生活するものとして毎日過ごしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの状態や生活歴、本人の願いや家族の要望を把握してケアに活かしている。日ごろより利用者と一緒に行動しコミュニケーションを取りながら本人の希望、意向を汲み取るようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望、意向は日常会話、生活動作の中から汲み取り、家族の意向はプラン作成時や面会時の折に聞いて介護計画に反映している。計画作成担当者を中心に職員や医師の意見を盛り込んで作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に3ヶ月の見直しが行われている。利用者の状態変化によっては、随時見直しを行っている。		

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算の指定を受け、健康管理や体調の急変に対応できるようにしている。短期利用共同生活介護の指定をつけている。本人や家族の希望により、外食、買い物などの個別対応をしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診できるように支援している。かかりつけ医がいない場合は紹介をしている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者や家族との話し合いはできているが、主治医がそれぞれ違うので、話し合いができていない主治医とできていない主治医がある。また現在の所方針はない。		ホーム長、管理者、職員の間で十分話し合い、実施する場合の準備や研修の実施等に取組み、全員で方針の共有が求められる。また話し合いができていない主治医に対しても速やかな話し合いが望まれる。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム長自ら利用者と同じ目線で対話がなされており、全職員、居室に入る際にも必ずノック、声かけを行い許可を得て入室している。トイレや入浴の際の脱衣場では、十分気をつけている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその日課は決まっているが、希望に応じて散歩、買い物、家事、レクリエーション等に参加してもらっている。		

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、食材は外注にしており、事前にできた献立表をチェックし利用者の希望に合わせて、変更し作成している。食事づくりや後片付けは利用者と職員が行い、職員は利用者と同じものを食べ、楽しく会話しながら、さりげなくサポートをしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴時間を定めている。現在は午前中の希望が多く順番に入浴している。シャワー浴はいつでもできるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活を大切にしながら過ごしている、自分でできる事はなるべくしていただき、布団のえり付け、食堂の掃き掃除等、今まで暮らしの中で自分でしていたことをそのまま続けられている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて、買い物や散歩、ドライブ等を行っている。ドライブは海が近いので海岸近くまで行くことが多い。雨降り以外はほとんど外出支援をおこなっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員は鍵をかける弊害は理解しているものの、鍵をかけないケアについては家族会で今までに何回となく話し合いを持ってきた案件である。道路に出ると車の通りも多く、玄関の前が駐車場であると言う事から、家族からの希望により、苦渋の決断のもと玄関は施錠している。		利用者はいつでも自由に外に出ることができる、という認識をもって暮らすことの大切さを、時間をかけて家族に理解していただくことが望まれる。また外出傾向のある利用者を把握し支援する取り組みが期待される。
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応マニュアルが作成されており、消防署の協力のもと月に1回避難訓練を行っている。隣接する老健センターとの協力体制はとれている。災害時の非常食も備蓄されている。		

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注先の栄養士がカロリー計算した献立表をホームでチェックしている。食事摂取量のチェックを行っている。水分量については、水分摂取記録までは至っていないが、朝、夕、食事時、10時、15時、入浴後とこまめに補給を行っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花やベンチが置かれて、利用者や訪問者を落ち着いた気持ちにさせてくれる。ホーム内は明るく静かな空間になっている。居間にはテーブルが2つ、横にはソファが置かれていてゆっくりとくつろげる場所になっている。居間からは自由に出入りできるサンデッキが張り出しており、そこでは季節の花や野菜が植えられている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベット利用と畳みの部屋と、好みに応じて利用されている。家具、テーブル等の使い慣れたものや仏壇、写真など本人が大切にしているものが持ち込まれている。壁には自作の書画や色紙作品が飾っており、利用者が安らげる場所となっている。		